

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点④〇〉

三郷学の視点

17. 資源 (読書のまちづくり)

地方分権の時代を迎え、全国の自治体では、地域資源を活かしたさまざまなまちづくりに取り組んでいます。三郷市は、読書がみずみずしい感性や旺盛な好奇心を育み、より深く豊かに生きるための力となっており、生涯にわたり大きな財産となるものと考え、平成25年3月には、三郷市議会の議決を経て「日本一の読書のまち」を宣言するなど、読書活動を軸としたまちづくりを推進しています。

読書は、個人の課題解決や楽しみだけにとどまらず、読書会や「読書ゆうびん」などにより、家族や友人と読書体験を共有することで、コミュニケ



絵本やわらべ歌を楽しむ親子おはなし会

ーション・ツールともなります。

また、三郷市では、読書活動を推進している全国自治体・団体と、情報交換を行ったり講演会や読書フェスティバルを開催したりすることで、交流を深めています。

読書活動を通じてネットワークを構築することによって、三郷市の取り組みは人と本をつなぐだけでなく、市内や全国の〈人と人〉そして〈地域と地域〉をつなぐものとなっています。